

として知られている場所など危険な場所の安全確保や看板の設置など自殺を思いとどまらせるための働きかけ、自殺手段として用いら

れる可能性のある薬品等に対する適正な取扱いの徹底も重要である。

## 事例紹介 1 海外の取組

### 英国の自殺多発地点対策（ホットスポット対策）

英国では、何度も自殺場所として使われ、その場所自体が自殺の方法もしくは機会になってしまう特定の地点を科学的な手法によって同定し、「自殺多発地点（ホットスポット）」と定め、根拠に基づいた具体的対策を試みています。これがホットスポット対策（自殺多発地点対策）と呼ばれるものです。ホットスポットとなりやすい場所・手段には、「高所からの飛び降り」、「動いている乗り物の前に身を投げ出す」、「他の方法（とりわけ車の排出するガス中毒）」といったものがあります。飛び降り自殺は死亡率が高く、その多くが公共の場所で起こり、メディアの関心を引きつけることで、模倣自殺を招く危険性があります。動いている乗り物の前に身を投げ出すという手段は、例えば鉄道への飛び込みなど公共の場所で行われることも多く、運転手や目撃してしまった人に対しても心理的ダメージを与えます。その他の手段としては、人目につかない駐車場や孤立した郊外などが、排気ガス中毒などの自殺の機会を与えると指摘されています。

我が国においても、ホットスポットと呼べる場所はいくつか存在しています。しかし、残念なことに、今のところ、国レベルでこうした場所での予防的取組をするという動きはありません。そのほとんどが一時的なキャンペーンや心あるボランティアの個人的な尽力のみに頼っているのが実情です。

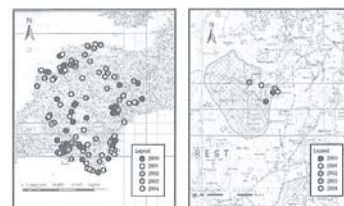
英国のホットスポット対策では、物理的障壁を作る、看板や専用電話を設置する、パトロールをするといったことが示されていますが、費用面や環境保護の面など、どれも一長一短があると指摘されています。したがって、自殺多発地点での対策を実行するためには、実際に活動をする人員の確保もさることながら、いろいろな視点から議論を重ねてその地点における最善の策を生み出すためにも、関係する諸団体との相互連携が欠かせません。特に、ホットスポットで人がどのような行動を取るのかを想定する際には、環境保護団体、その付近を毎日のように散歩している人、地元で暮らす人々からの意見も重要な情報となります。ホットスポット対策は、このような多方面からの情報と協力によって実現されているわけです。

もっとも、ホットスポット対策が「水際対策」でしかないという認識も重要です。ホットスポット対策を活かすために重要なことは、死を思いとどまった人たちが、そこからもう一度生きていこうと思えるように、必要な支援を提供し、戻っていける場所を整えることではないでしょうか。

なお、ホットスポット対策については、当センター発行のブックレット<<http://www.ncnp.go.jp/ikiru-hp/index.html> 参照>に詳しく紹介しています。

（自殺予防総合対策センター）

#### <GISソフトを用いて作成された地方の自殺データ地図の例>



注：上に示された場所は、データの製作データをもとにしている。